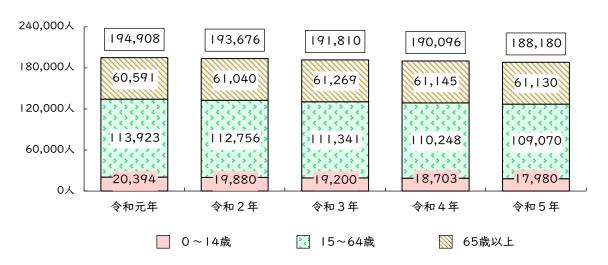
第2章 高齢者の現状

第2章 高齢者の現状

1 統計からみる沼津市のすがた

(1)人口・世帯

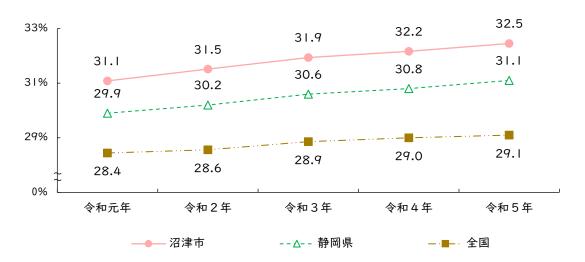
総人口・年齢3区分別人口



資料:「住民基本台帳(各年10月1日時点)」

総人口は減少傾向にあるが、「65歳以上」は令和3年まで増加傾向にあった

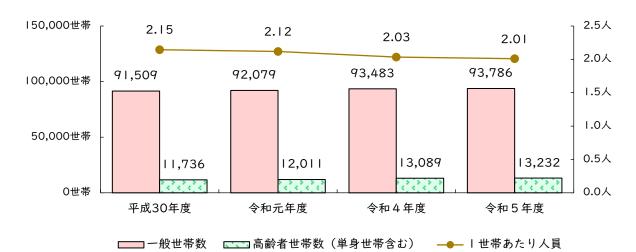
高齢化率の比較



資料:沼津市「住民基本台帳(各年 10月 | 日時点)」、静岡県「静岡県年齢別人口推計(各年 10月 | 日時点)」 全国「人口推計(各年 10月 | 日時点)」※全国の令和5年は 10月の概算値

静岡県や全国よりも高齢化率は高い水準で推移している

一般世帯数・高齢者世帯数(単身世帯含む)・1世帯あたり人員



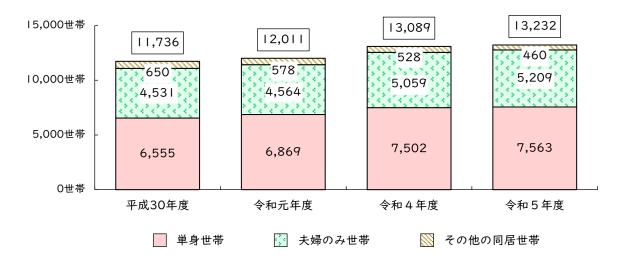
※ここでの高齢者とは「70歳以上の人」を指します。また、高齢者世帯とは、70歳以上の単身世帯、70歳以上の夫婦世帯、70歳以上の人を含む世帯を指します。

※令和2年度・令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、調査を実施していません。

資料:「一人暮らし高齢者等実態調査(各年度9月|日時点)」、「人口と世帯 一覧表(各年度8月3|日時点)」

一般世帯数・高齢者世帯数(単身世帯含む)は増加傾向 I 世帯あたり人員は減少傾向

世帯構成別高齢者世帯数(単身世帯含む)



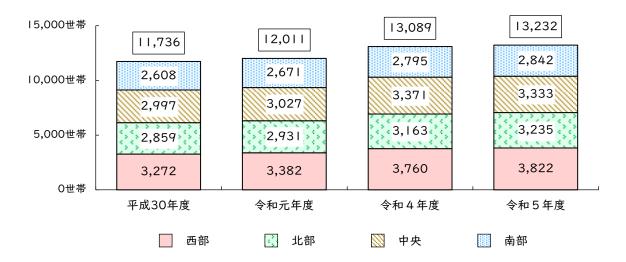
※ここでの高齢者とは「70歳以上の人」を指します。また、高齢者世帯とは、70歳以上の単身世帯、70歳以上の夫婦世帯、70歳以上の人を含む世帯を指します。

※令和2年度・令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、調査を実施していません。

資料:「一人暮らし高齢者等実態調査(各年度9月1日時点)」

単身世帯の増加が大きく、5年間で1,008世帯増加している

日常生活圏域別高齢者世帯数(単身世帯含む)

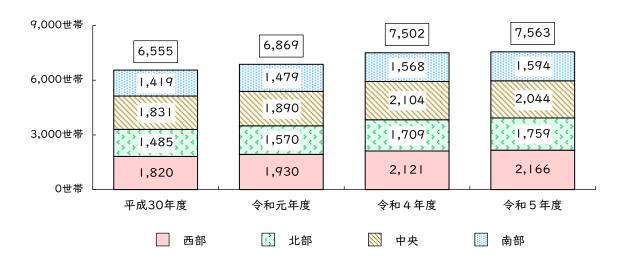


- ※ここでの高齢者とは「70歳以上の人」を指します。また、高齢者世帯とは、70歳以上の単身世帯、70歳以上の夫婦世帯、70歳以上の人を含む世帯を指します。
- ※令和2年度・令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、調査を実施していません。

資料:「一人暮らし高齢者等実態調査(各年度9月1日時点)」

全体的に増加傾向にあるが、西部での増加が大きい

日常生活圏域別高齢者単身世帯数



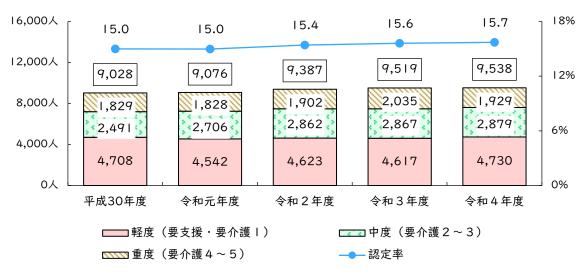
- ※ここでの高齢者とは「70歳以上の人」を指します。
- ※令和2年度・令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、調査を実施していません。

資料:「一人暮らし高齢者等実態調査(各年度9月1日時点)」

全体的に増加傾向にあるが、単身世帯も西部での増加が大きい

(2)介護

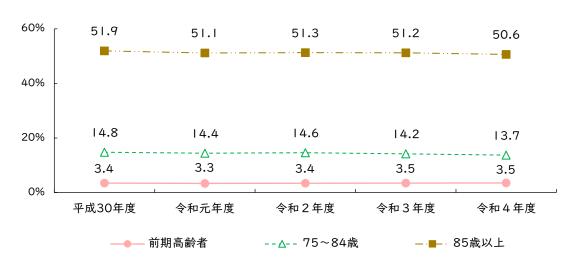
第1号被保険者の要介護度別要支援・要介護認定者数・認定率



資料:平成30年度~令和2年度「介護保険事業状況報告(年報)」 令和3年度~令和4年度「介護保険事業状況報告(3月月報)」

要支援・要介護認定者数は増加傾向、「中度」の増加が大きい 認定率は上昇傾向にある

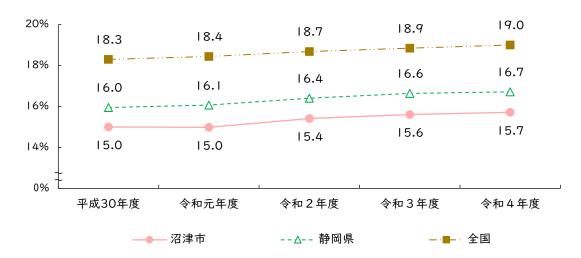
年齢別第1号被保険者の認定率



資料:平成30年度~令和2年度「介護保険事業状況報告(年報)」 令和3年度~令和4年度「介護保険事業状況報告(3月月報)」

85歳以上で認定率の低下傾向がみられるものの、 2人に I 人が認定を受けている状況が続いている

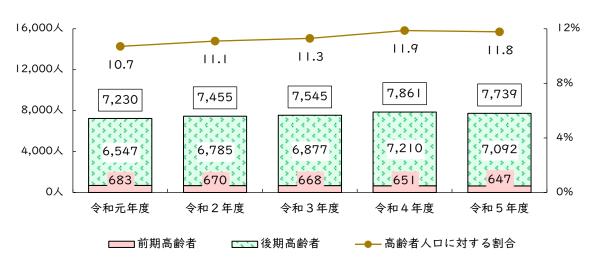
第1号被保険者の認定率の比較



資料:平成30年度~令和2年度「介護保険事業状況報告(年報)」 令和3年度~令和4年度「介護保険事業状況報告(3月月報)」

静岡県や全国よりも認定率は低い水準で推移している

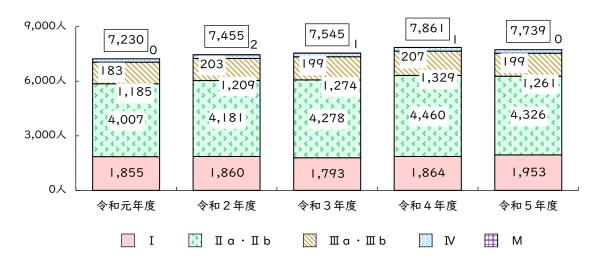
年齡別認知症高齢者数



(各年度4月1日時点)

認知症高齢者の大半が後期高齢者で、前期高齢者は少ない 高齢者の10人に1人以上が認知症

程度別認知症高齢者数



(各年度4月1日時点)

<認知症高齢者の日常生活自立度判断基準>

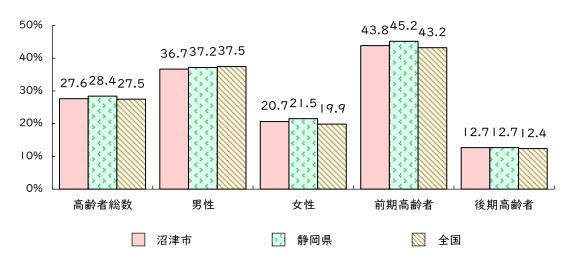
-	ランク	判定基準
	I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
	П	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
	Ιа	家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。
	Πр	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。
	Ш	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。
	Ша	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。
	Шb	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。
	IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
	M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

認知症高齢者の半数以上がⅡa・Ⅱ b

(日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、 誰かが注意していれば自立できるという評価)

(3) 就労

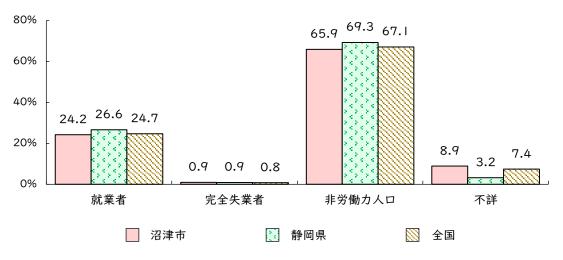
労働人口割合



資料:「国勢調査(令和2年10月1日時点)」

静岡県や全国と類似した傾向がみられ、 女性より男性、後期高齢者より前期高齢者で労働人口割合が高い

65歳以上の就業者割合



資料:「国勢調査(令和2年10月1日時点)」

静岡県や全国と類似した傾向がみられ、 65歳以上でも約4人に | 人が就業している

2 調査からみる沼津市のすがた

(1)調査概要

①調査の方法

調査対象: 高齢者一般調査・・・・沼津市在住の 65 歳以上の男女

総合事業対象者調査 ・・・沼津市在住の総合事業対象認定を受けている男女

在宅要支援認定者調査・・・沼津市在住の要支援認定を受けている男女在宅要介護認定者調査・・・沼津市在住の要介護認定を受けている男女

抽出方法:高齢者一般調査・・・・1,500 人を無作為抽出

総合事業対象者調査・・・ 150 人を無作為抽出 在宅要支援認定者調査・・・ 800 人を無作為抽出 在宅要介護認定者調査・・・1,100 人を無作為抽出

調查方法:郵送配布 郵送回収

調査期間:令和4年12月7日~令和4年12月23日

②回収状況

		発送数	回収数		有効回収数	有効回収率
Λ **** → μ.	高齢者一般調査	査 1,500通 1,001票 1,001票		1,001票	66.7%	
介護予防・ 日常生活圏域 ニーズ調査	総合事業対象者調査	150通	87票	1,630票	87票	58.0%
	在宅要支援認定者調査	800通	540票		540票	67.5%
在宅介護 実態調査	在宅要介護認定者調査	1,100通	617票		617票	56.1%

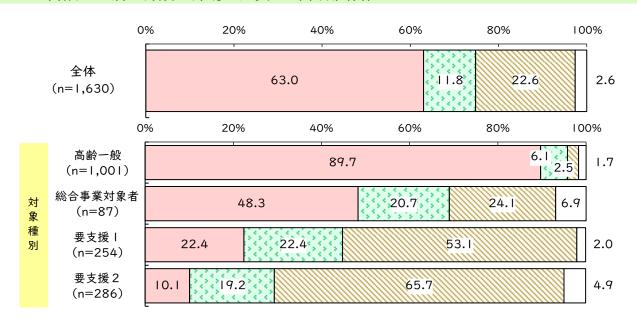
- ※有効回収数:回収票から全く回答がないもの(白票)や回答が少ないもの(無効票)を除いた数。
- ※対象者の振り分けのできない2票があったため高齢者一般・総合事業対象者・在宅要支援認定者の回収合計数 も示している。

③注意事項

- ◇ 回答は各設問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示してある。
- ◆ 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が 100%にならないことがある。
- ◆ 1つの設問に2つ以上答えられる"複数回答可能"の場合は、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。
- ◆ スペースの関係上、一部設問、選択肢の文言を省略している箇所がある。
- ◆ この調査結果は、傾向や特徴がある設問を中心に掲載している。

(2)調査結果【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】

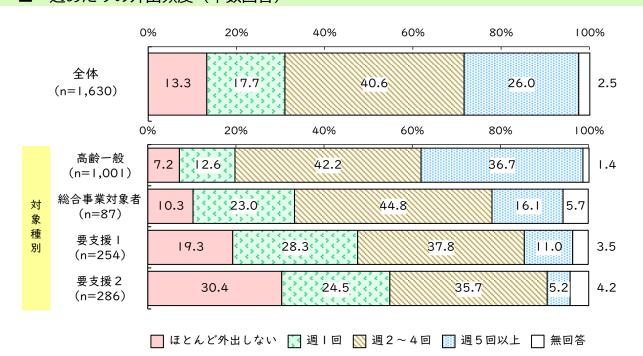
■ 普段の生活で介護・介助が必要か(単数回答)



■ 必要ない 💽 必要だが、受けていない 🚫 受けている 🔲 無回答

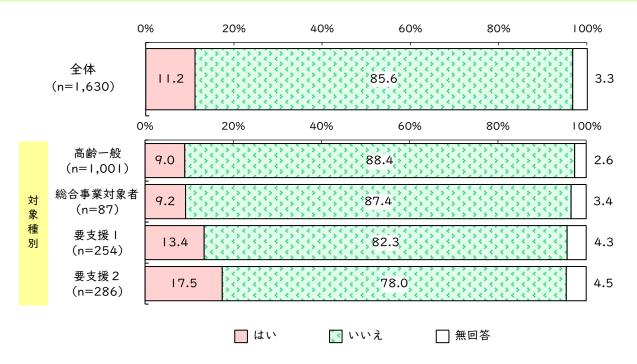
「必要ない」と答えた人がおよそ60%

■ 週あたりの外出頻度(単数回答)



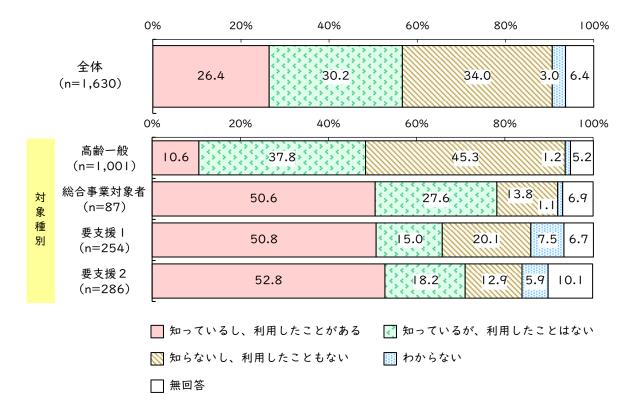
要支援2では「ほとんど外出しない」と答えた人がおよそ30%

■ 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人の有無(単数回答)



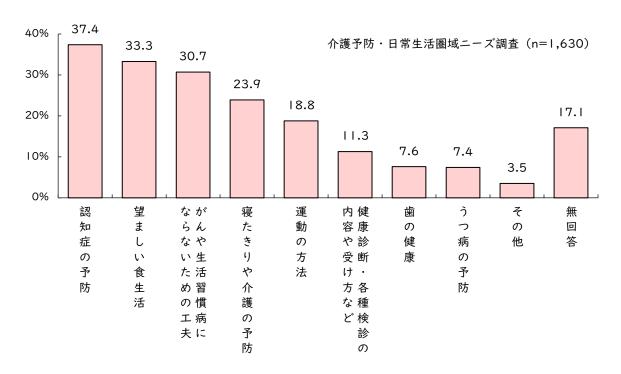
「いいえ」と答えた人がおよそ90%

■ 地域包括支援センターの役割の認知状況・利用状況(単数回答)



「知っているし、利用したことがある」と答えた人がおよそ30%

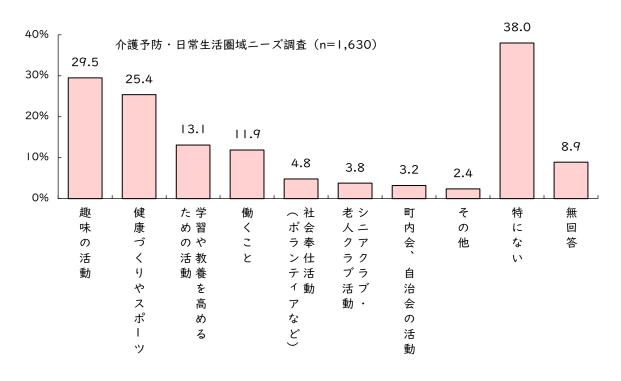
■ 健康について知りたいこと(複数回答可能:3つまで)



	回答者数	認知症の予防	望ましい食生活	ならないための工夫がんや生活習慣病に	寝たきりや介護の予防	運動の方法	内容や受け方など健康診断・各種検診の	歯の健康	うつ病の予防	その他	無回答
対象種別											
高齢一般	1,001	38.2	34.3	36.9	16.8	19.7	11.7	7.8	7.1	4.0	16.0
総合事業対象者	87	43.7	33.3	23.0	28.7	20.7	10.3	5.7	3.4	1.1	20.7
要支援Ⅰ	254	35.0	31.1	24.0	34.6	15.7	11.8	4.7	9.8	3.9	18.1
要支援2	286	35.0	32.2	17.8	38.1	18.2	10.1	10.1	7.7	2.1	18.2

「認知症の予防」と答えた人がおよそ40%

■ 今後やってみたいと思うもの(複数回答可能)



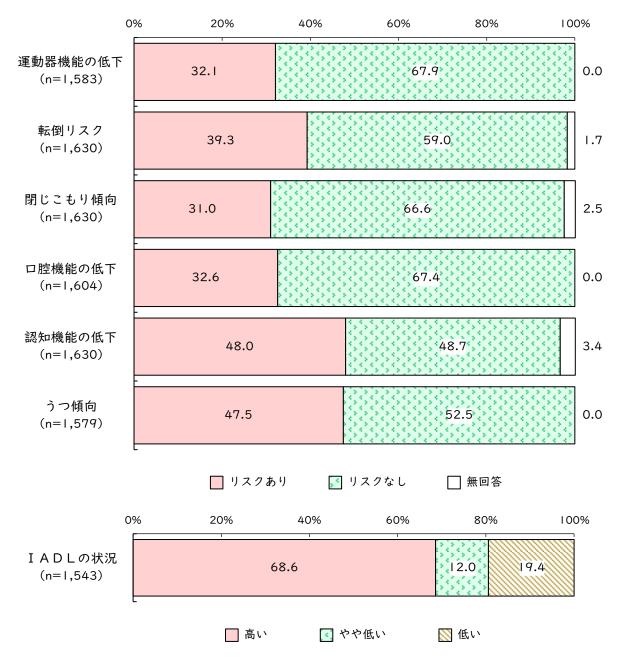
	回答者数	趣味の活動	健康づくりやスポーツ	ための活動学習や教養を高める	働くこと	(ボランティ アなど)社会奉仕活動	老人クラブ活動シニアクラブ・	町内会、自治会の活動	その他	特にない	無回答
対象種別											
高齢一般	1,001	34.6	29.0	14.6	14.2	6.1	2.5	3.3	2.4	31.8	8.1
総合事業対象者	87	26.4	27.6	12.6	10.3	4.6	6.9	1.1	1.1	33.3	14.9
要支援丨	254	23.2	18.9	10.6	9.4	2.8	7.5	3.9	3.5	46.9	10.2
要支援2	286	18.2	18.2	10.5	6.6	2.4	4.2	2.8	1.7	53.5	8.7

「趣味の活動」、「健康づくりやスポーツ」と答えた人がおよそ30%

■ 高齢者の身体機能の状況の分析

本市が実施した実態調査のうち、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では高齢者の心身の状況等のリスクを分析するための調査項目が設定されています。

それらの調査項目から高齢者の身体機能の状況を評価しました。(詳細な調査項目や 評価方法は次ページに掲載しています。)



認知機能の低下、うつ傾向の「リスクあり」の人がおよそ50% IADL*が「低い」人がおよそ20%

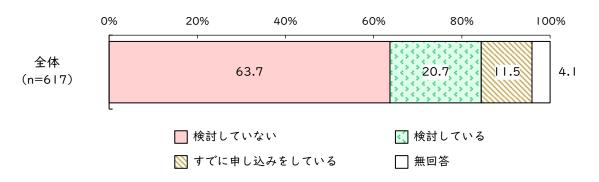
_

[※] IADL:Instrumental Activities of Daily Living の略で、「手段的日常生活動作」という意味です。ADLに定義されている生活を送る上で最低限必要な動作(布団から起き上がる、着替える、食事を食べるなど)より、複雑で高度な判断を必要とする動作(献立を考え買い物をする、料理を作る、洗い物をするなど)を指しています。

		調査項目		選択肢	
	3問以上で 該当する選択肢を 回答した場合	階段を手すりや壁を伝わらずに昇れ るか			
運動		椅子に座った状態から何もつかまら ずに立ち上がっているか	3	できない	
運動器機能の低下		15分くらい続けて歩いているか			
低下		転倒経験(過去1年間)	1 2	何度もある 1 度ある	
		転倒に対する不安	1 2	とても不安である やや不安である	
転倒 リスク	該当する選択肢を 回答した場合	転倒経験(過去1年間)	1 2	何度もある 1 度ある	
閉じ こもり 傾向	該当する選択肢を 回答した場合	外出頻度(週あたり)	1 2	ほとんど外出しない 週1回	
口腔	2問以上で 該当する選択肢を 回答した場合	固いものを食べにくくなったか			
口腔機能の低下		お茶や汁物等でむせることがあるか	1	はい	
下		口の渇きが気になるか			
認知 機能の 低下	該当する選択肢を 回答した場合	物忘れが多いと感じるか	1	はい	
うつ	いずれかの設問で 該当する選択肢を 回答した場合	気分が沈んだり、ゆううつな気持ち になったりすることがあるか	,	h.b.	
う つ 傾 向		どうしても物事に興味がわかなくな ったか	1	はい	
	5問の合計点によってIADLの状況を評価する。 ・5点の場合	バスや電車を使って1人で外出して いるか			
I		食品・日用品の買物をしているか	1	できるし、している ⇒1点	
I A D L の状況	「高い」	自分で食事の用意をしているか	2	できるけどしていない ⇒1点	
状 況 	・4点の場合 「やや低い」	請求書の支払いをしているか	3	できない ⇒0点	
	・3点以下の場合 「低い」	預貯金の出し入れをしているか			

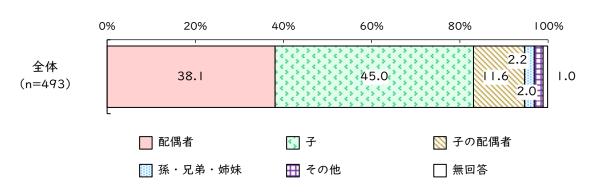
(3)調査結果【在宅介護実態調査】

■ 現時点の施設等への入所・入居の検討状況(単数回答)



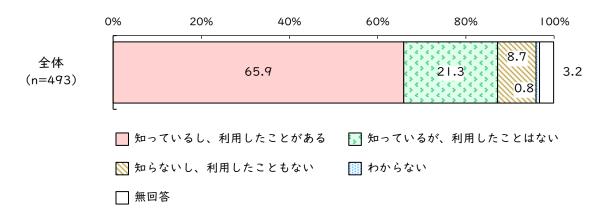
「検討していない」と答えた人がおよそ60%

■ 主な介護者(単数回答)



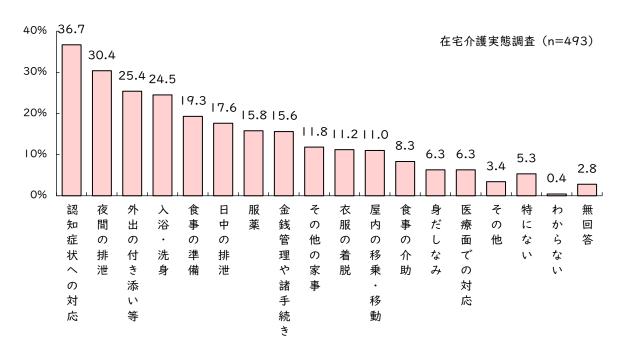
「配偶者」と「子」とそれぞれ4割前後

■ 地域包括支援センターの役割の認知状況・利用状況(単数回答)



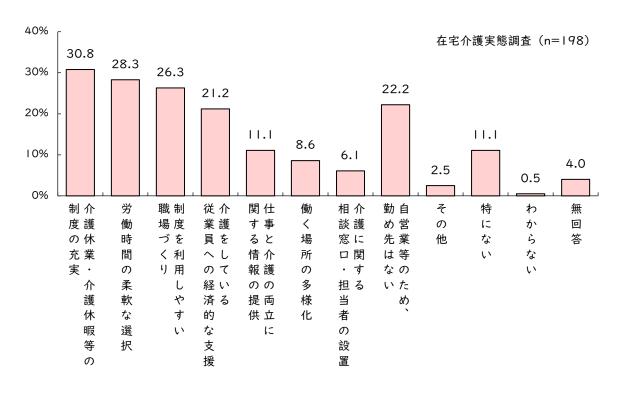
「知っているし、利用したことがある」と答えた人がおよそ70%

■ 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等 ※現状で行っているか否かは問わない (複数回答可能:3つまで)



「認知症状への対応」と答えた人がおよそ40%

■ 主な介護者が仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援 ※働いている主な介護者のみ (複数回答可能:3つまで)



「介護休業・介護休暇等の制度の充実」と答えた人がおよそ30%